

日本電話相談学会第 39 回大会のご案内

盛夏の候、みなさまにはいかがお過ごしでしょうか。

日本電話相談学会第 39 回大会の 1 号通信をお送りいたします。

第 39 回大会テーマは「電話相談研修の意義と可能性ー学び続ける相談員であるためにー」です。相談支援に携わる皆さまにとって、より良い支援を実現するためには、定期的に研修を通じた学びの機会を持つことや、日々の自己研鑽が欠かせない営みであることは言うまでもありません。私たちは常に、多様な価値観や変化するニーズに応じ続ける力が求められ、時に自らの限界が試されていると感じることもあるのではないのでしょうか。こうした状況に向き合うためには、一人ひとりが知識や実践を更新し続け、自らの支援を問い直しながら学び続ける姿勢が必要になります。同時に、その学びを支え、継続していくための環境や文化を各機関として整えていくことも重要です。各機関においては、そのような観点から、さまざまな工夫を凝らしながら研修の計画・運営が行われていることと存じます。本学会では、日頃の研修の在り方を振り返るとともに、あらためて相談員として学び続ける意義やその具体的なあり方について考えを深める機会となればと企画し、計画しております。参加される皆さまにとって、自身の実践を見つめ直し、明日からの支援に活かすヒントを得られる場となれば幸いです。また、例年通り 2 日目には、皆さまの関心の高いテーマを取り上げたワークショップの開催を予定しております。引き続き、第 39 回大会はオンライン形式にて開催いたします。距離や所属機関の違いを越えて、普段出会えない仲間と時間と学びを共有できる機会となるよう、準備を進めております。

ぜひ、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2026 年 8 月吉日

日本電話相談学会第 39 回大会準備委員会

I 実施要領

1. 開催期日：2026 年 12 月 5 日（土）・12 月 6 日（日）
2. 開催方法：Zoom ミーティングによるオンライン開催
3. 大会テーマ：電話相談研修の意義と可能性ー学び続ける相談員であるためにー
4. 参加資格
 - ・ 日本電話相談学会正会員
 - ・ 日本電話相談学会機関会員（3 名まで）
 - ・ 電話相談・オンライン（インターネット）相談に携わる非会員
5. 大会行事と日程

12 月 4 日（金）	12 月 5 日（土）	12 月 6 日（日）
19:00～ 理事会	9:30 ～ Zoom 入室可 10:00 ～ 開会 10:10 ～ 11:00 研究発表 11:15 ～ 12:00 総会 12:00 ～ 13:00 昼食・休憩 13:10 ～ 14:10 基調講演① 14:15 ～ 15:15 基調講演② 15:15 ～ 15:30 休憩（質疑準備） 15:30 ～ 16:40 鼎談・質疑応答 16:40 ～ 16:50 まとめ 16:50 ～ 閉会（写真撮影）	9:00 ～ Zoom 入室可 9:30 ～ 12:30 ワークショップ A ワークショップ B 12:30 ～ 13:30 昼食・休憩 13:30 ～ 16:30 ワークショップ C ワークショップ D

6. 参加費

<大会参加費> 事前申込のみ

正会員	3000 円	機関会員 (3 名まで)	3000 円
非会員	4000 円	学生	2000 円

***オンライン開催のため、当日受付はできません。ご注意ください。**

***機関会員は登録機関につき 3 名までの参加費です。4 名以上参加される場合は、4000 円の納入（非会員扱い）となります。**

<ワークショップ参加費>

Ⅰコースにつき	正会員	2000 円	機関会員 (3 名まで)	2000 円
	非会員	3000 円	学生	1000 円

***予約参加のみとなります。**

***大会とワークショップ、両方に参加する場合は、それぞれの参加費が必要です。**

***事前に申込みいただいた参加費は参加を取り消された場合でも返金できません。
ただし、インターネット環境によりご参加できなかった場合には、返金いたします。**

Ⅱ プログラム概要

2026 年 12 月 5 日 (土)

開 会 10:00 ~

研究発表 10:10 ~11:00

*研究発表申込み要項は p.5 参照

総会 11:15 ~12:00

*議決権はありませんが、機関会員の参加者のなかから、代表者の方にはご出席をお願いできればと存じます。非会員の方は出席できません。

昼休憩 12:00~13:00

大会企画基調講演&鼎談&質疑応答 13:00 ~ 16:50

開会 13:00~

基調講演① 13:10 ~ 14:10

表題:「未来の自分に向けて、今、私ができること-相談員としての成長に注目して-」

講師:長谷川 明弘先生 (帝京大学文学部心理学科教授/吉祥寺・三鷹カウンセリングセンター)

<講師紹介>

長谷川 明弘 (はせがわ あきひろ)

資格:臨床心理士、公認心理師、指導催眠士・認定催眠士、臨床動作士、等

経歴:愛知学院大学卒業。新潟大学大学院修了後、医療、福祉、教育、産業領域で実践活動を行いつつ、東京都立大学大学院で博士号(都市科学)を高齢者の生きがいの地域差で取得。

2003 年から金沢工業大学で学生相談に携わり、2013 年から東洋英和女学院に勤務しながら、

2020 年に吉祥寺・三鷹カウンセリングセンターを開設した後、2024 年から帝京大学に勤務。所属した大学・大学院では、2004 年以降に臨床心理士・公認心理師といった心理専門職の養成・

訓練に従事。

2000年から2003年まで保健同人社ヘルシーダイヤルならびに保健同人事業団にて臨床心理士（非常勤）。2016年から金沢こころの電話の相談役を務めている。

2025年10月「This is Ikigai365」をPenguin Random House SEAから共著で出版

個人開設のWEB：臨床心理学の扉を開く <http://hasegawa-akihiro.com>

個人開設心理オフィス：吉祥寺・三鷹カウンセリングセンター <http://kimic-c.jimdofree.com>

基調講演② 14:15 ～ 15:15

表題：「相談員の学びを支える仕組みづくり～消耗せず、折れず、育ち続けるために～」

講師：安藤 亘先生（ビヨンドザボーダー株式会社）

<講師紹介>

安藤 亘（あんどう わたる）

ビヨンドザボーダー株式会社代表取締役 社会福祉士・精神保健福祉士事務所「i さぽーとステーション」代表 紹介ムービー 社会福祉士・精神保健福祉士。早稲田大学人間科学部を卒業し(株)リクルートに入社。その後メンタルヘルスの分野へキャリア変更し、埼玉県地方公務員として埼玉県立精神保健福祉センター相談員、県立精神科病院ソーシャルワーカー、保健所の精神保健福祉相談員等、メンタルヘルスに関する様々な相談援助活動の経験を重ねる。現在は、メンタルヘルスに関する様々な講演会や研修会の企画・運営、講師等をつとめている。

紹介ムービー



休憩 15:15 ～ 15:30

＊講演を聞いて気づかれたことや講師への質疑等をチャットでお寄せください。

鼎談・質疑応答 15:30 ～ 16:40

進行・ファシリテーター：杉山 雅宏（日本電話相談学会副理事長・東京家政大学教授）

まとめ 16:40 ～ 16:50 岩田 淳子（日本電話相談学会理事長・成蹊大学特別任用教授）

閉会（写真撮影） 16:50 ～17:00

12月6日（日） ワークショップ・・・ 詳細はVI. ワークショップ をご覧ください。

Ⅲ大会参加申込み

事前参加申込みのみ、Google Formからの受付となります。当日参加はできませんので、ご注意ください。

Google Form は以下からアクセスしてください（日本電話相談学会ウェブサイトからもアクセスできます）。

<https://forms.gle/Ss2Vzv6YiDnDguc7>

QRコードからもアクセスできます。



<参加費のお支払い方法>

以下の口座に参加費用を納入してください。

参加費用納入の確認を持って事前参加申込完了となります。

銀行名 みずほ銀行 支店名 経堂(きょうどう)

種別 普通 口座番号 1217637 口座名義 日本電話相談学会

<申込み締切日>

事前申込期限(振込完了)は 2026 年 11 月 13 日(金)です

Ⅳ 研究発表申込み

1. 研究発表の要件

- ・筆頭発表者は、正会員であること。連名発表者は機関会員でもよいが、大会参加する3名までとする。
- ・発表者（連名発表者を含む）は開催年度を含む年度会費および大会参加費を所定の期日までに納入済みであること。

2. 研究発表の内容

電話相談、インターネット相談に関する事例・調査・実践活動についての研究です。電話やインターネットへの意識など、基礎的研究も含まれます。

3. 研究発表申込の登録

日本電話相談学会ホームページより、「研究発表申込書」をダウンロードし必要事項を記載して、メール添付でお申込みください。その後、研究発表原稿をご提出いただきます。

研究発表申込期限は 2026 年 9 月 25 日（金）《必着》

4. 研究発表論文集原稿の作成

「研究発表申込書」にてお申込みいただいた方に、「研究論文集原稿」のレイアウト済みファイルをお送りいたします。レイアウトを変更しないように作成し、送信してください。

なお、掲載様式を統一するために書式を整える場合がありますので、ご了承ください。

発表論文集原稿期限は 2026 年 10 月 8 日（金）《必着》

5. 研究発表論文集原稿作成にあたって

<倫理的配慮>

大会研究発表のみならず、電話相談・インターネット相談の実践活動において倫理を遵守して

いることが大切です。対象者・関係者・組織・機関の人権や尊厳が傷つけられることのないよう留意してください。可能な限り、対象者および所属機関の了解を得るようにしてください。オンライン開催のため、事例研究はお控えいただきますようお願い致します。

<論文作成の注意点>

- 1 原則として、事例研究の場合は「はじめに、事例の概要、面接経過、考察」、調査研究、実践研究の場合は「問題と目的、方法、結果、考察」の形式としてください。
- 2 倫理的配慮と形式を踏んでいるかの観点から準備委員会が査読を行います。原稿の修正を求めることがありますのでご了承ください。

6. 研究発表お申込・お問い合わせ先

日本電話相談学会大会事務局 E-mail : soudangaku@gmail.com

V. Zoom ミーティングリンクについて

Zoom ミーティングのリンクは、参加費振込を確認した各参加者宛に、11月29日以降に学会アドレスより、メールで送信いたします。

この情報は振込を確認できた参加者のみにお知らせするものです。情報の管理にはくれぐれもご注意いただきますようお願いいたします。

*勤務先等で複数の方が1台のパソコンで Zoom に参加することによって、何らかのトラブルがあった場合、学会として責任を負うことはできませんこと、ご理解ください。

<アクセスされた際のお願い>

- ・参加申込をされたアカウント・お名前の表記でアクセスしてください。
参加申込者以外の方が本大会 Zoom にアクセスすることは厳禁です。
- ・お名前の表示を「お名前（ご所属）」のように設定してください。
- ・可能な限り、安定したインターネット環境、プライバシーの守れる環境でのご参加をお願いいたします。
- ・「ビデオ画面はオフ」「音声をミュート（消音）」でご参加ください。発言される際には「音声のミュートを解除」し、「ビデオ画面をオン」にさせていただきますようお願いいたしますが、その際、背景も映り込みますので、ご自身のプライバシーの保護にお気を付けください。
- ・ただし、ワークショップにおいてブレイクアウトルームを使用する際には、「ビデオ画面オン」「音声のミュートを解除」いただけると、お話し合いがしやすいです。
- ・発言はしにくいけど質問したい、という場合には「チャット」をご使用いただけます。
- ・録音・録画は禁止です。
- ・事前 Zoom 練習は実施しません。もし、不安がある場合には、soudangaku@gmail.com までメールをください。出来る範囲でお手伝いします。学会当日の電話サポートはありません。学会当日のご連絡は soudangaku@gmail.com をお願いいたします。

VI. ワークショップ ***午前1コース/午後1コース、計2コースまで申し込み可能です。**

午前コース 9:30～12:30

A 金子 恵美子先生（慶應義塾大学教職課程センター）

【テーマ】いじめ・不登校の現状と相談対応

【概要】いじめの認知件数や重大事態の発生件数、不登校の児童生徒数は、毎年、過去最多となる状況が続いています。いじめや不登校に関する相談への対応にあたっては、いじめや不登校の現状、支援に関する施策やさまざまな支援の場などについての理解を深めておくことも重要になります。そこで、本ワークショップでは、それらの点についてふれたうえで、いじめや不登校に関する相談への対応についてグループワークも行いながら考えたいと思います。

B 川端 康尋先生（エースチャイルド株式会社）

【テーマ】家庭問題と児童虐待への電話相談対応ー児童虐待とヤングケアラーへのアプローチ

【概要】令和6年度の児童虐待対応件数は、統計開始以来初めて前年度から下がりましたが、高止まりの状態が続いています。そのため、本ワークショップでは児童虐待の現状と児童虐待が発生する要因を整理し、子ども本人や保護者から寄せられる電話相談にどう対応すべきかを一緒に検討します。また、日々の何気ない相談の中にそれとなく含まれているかもしれない、「ヤングケアラー」にどう気づくかについても一緒に考えます。総合して、相談内容の背後にある複雑な家庭環境を紐解き、実際の現場で活かせる知識や対応スキルの向上を目指します。

午後コース 13:30～16:30

C 杉山 雅宏先生（東京家政大学）

【テーマ】電話相談の基礎ー悩み（葛藤）の3つのステージ

【概要】人の悩みを生み出している葛藤は、3つのステージを進みます。悩みの発生と自責、自分に逆切れ、葛藤の崩壊です。人の悩みの発生は、共通の構造を持っています。強い葛藤がある期間持続することが、悩みの本質です。人はこの悩みの構造の中に囚われてもがき苦しみます。昨年のワークショップでは葛藤の定義（規範と感情の対立の中で規範を守ろうと苦しんでいること）を学びました。昨年度の復習に加え、葛藤が解決に向かう3つのステージについて、事例から学びます。

D 小川 真理子先生（東京大学多様性包摂共創センター ジェンダー・エクイティ推進オフィス 副オフィス長、特任准教授）

【テーマ】女性福祉はどこに向かうのかー女性支援法施行後の変化と相談支援現場の課題ー

【概要】近年、女性を取り巻く困難は複雑化・多様化し、相談支援には各機関における横断的かつ継続的な支援が求められています。「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行は、女性福祉の理念と実践を大きく転換させるとともに、相談支援の専門性をあらためて問い直す契機となりました。女性福祉・女性支援政策の動向を概観し、女性相談支援員の実践を手がかりに、相談支援における専門性、連携、支援について検証します。ご参加の皆様とともに、女性福祉における相談支援の今後の展望と研究課題について考える機会となれば幸いです。